



北区の部屋だより

2025 年 8 月 第 192 号



刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和7年8月発行

北 区
こぼれ話
第 192 回

—知っていますか？赤羽にあった自動車教習所—



みなさんは、写真に写るこの建物を知っていますか？
これは、1953 年(昭和 28)から 1974 年(昭和 49)まで存在していた赤羽自動車練習所です。名称は自動車「練習所」ですが、免許取得の講習を行っていたため、いわゆる指定自動車教習所と変わりありません。稲付町 1 丁目(現在の赤羽南 1 丁目)にあり、赤羽公園のすぐ隣に位置していました。もしかしたら、以前ここに通って免許をとった方もいるのではないのでしょうか？



赤羽自動車練習所 1960 年(昭和 35)撮影

さて、今回は練習所ができた経緯とその後についてのお話をしていきたいと思います。

時代は高度経済成長期。所得の増加やインフラ整備が進んだことで、次第に自動車が普及していきました。こうした中で自動車事故の増加が見過ごすことのできない社会問題となっていき、運転技術習得の需要が高まりをみせました。そのような情勢の中で、区営の自動車練習所の設置が計画されました。

当初、練習所を建てる敷地として神谷町の学校予定地が挙げられましたが、狭いうえに立地条件が悪いことから、代替案として稲付 1 丁目の敷地が挙げられました。ここは高校誘致のために用意されたもので、練習所建設は本来の使用目的とは異なります。そこで、都教育庁に使用してよいか打診した結果、あくまで学校敷地として活用する方針は変えず、一時的に練習所として利用してよいことになりました。こうして、1953 年に北区立赤羽自動車練習所が開業し、翌年には特別区公安委員会公認となりました。

私営や安全協会経営が多い中で、全国的に見ても区が練習所を運営するという事例は極めて稀でした。当時の区行政では「東京都二十三区の先端を行く画期的な事業」(『北区議会史』より)と認識されており、区の期待を背負った政策だったと言えるでしょう。

しかし、当時としても先駆的な事業であったためか、練習所の運営は初年度から赤字続きでした。開設から 3、4 年を経て、ある程度自動車が普及してからわずかに黒字になりましたが、初年度の赤字をカバーするには程遠いものがありました。区としては、年数を重ねるごとに収入を増やしていく計画であったと推測されますが、このまま運営を継続したところで、今までの赤字額から挽回することは厳しかったのです。

これに追い打ちをかけるように、1959 年(昭和 34)頃から区議会で練習所経営が疑問視されはじめました。そもそも、区の事業はできる限り広範囲な区民サービスをすることが原則です。これに反して、対象が限られる練習所経営は、区の事業としてふさわしくないとみなされたのです。

その同時期、北区では区庁舎・公民館建設が目下の課題として挙げられており、建設費確保のために区有財産の処分が検討されていました。その処分対象として、練習所に白羽の矢が立てられました。その結果、1959 年練習所は東武鉄道に売却されました。運営は東武鉄道に引き継がれ、1974 年に閉鎖されるまで続けましたが、ここに約 6 年間続いた区営の自動車練習所事業は終わりを迎えました。そして、この練習所売却の費用で建設されたのが北区公会堂だったのです

北区の部屋
今月の展示

「閉校後の跡地は今?!」
～北区にあった小学校の跡地利用～



■展示期間：7月25日（金）～8月27日（水）

■展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

かつて北区には46校（1976～95年）の区立小学校がありましたが、今年（2025年）4月の時点で32校まで減少しています。では、閉校となってしまった小学校の跡地はその後どうなっているのでしょうか。今月の展示では北区の学校跡地について紹介します。



平和図書コーナー開設しました

図書館では北区をあげて行われる平和祈念週間のイベントの一環として、区内全図書館に「平和図書コーナー」を開設しました。

本を通じ、皆様が平和について考えるきっかけになればと願っております。

■開催期間：令和7年7月25日（金）～8月31日（日） ※休館日を除く

■開催場所：①一般向け … 中央・滝野川・赤羽図書館

②児童向け … 区内全図書館（子ども図書館、児童コーナー、子ども室等）

中央図書館では、北とぴあ地下1階展示ホールで行われる平和展（8月5日（火）～9日（土）まで）に「米軍が撮影した戦後の北区」と「ドナルド・キーンと平和 2025」の二つのテーマでパネル展示をします。また、「平和展」終了後には、パネル展示を引き続き中央図書館にて8月10日（日）～31日（日）まで行います。ぜひ、足をお運びください。



人気者の「王子の狐」



“王子”の“狐”がいろいろな本などに登場してくるのをご存知ですか？

落語の若い娘に化ける狐をみつけた男が、その狐を逆に化かそうとする話がよく知られていますが、江戸時代の王子稲荷神社には関東中の稲荷神社から使いの狐がお参りにくると信じられていました。北区では、1993年（平成5）から「狐の行列」祭りが行われ、多くの人でにぎわいます。中には、「妖怪」として紹介されている本もあります。「王子の狐」の本や紙芝居、見てみませんか？

『王子のきつね古典落語「王子の狐」より』 柳家三三著/あかね書房
『落語こてんコテン』 柳家喬太郎著/筑摩書房
『日本の伝説 江戸東京』 藤沢衛彦著/河出書房新書
『森の紳士録 ぼくの出会った生き物たち』 池内紀著/岩波書店
『気になる物件』 泉麻人著/扶桑社
『きつね装束殺人事件』 七滝雅孝著/新風舎
『日本全国妖怪スポット 1 妖の巻』 村上健司著/汐文社
『妖怪そろそろ俳句の本 上』 古館綾子著/童心社
『王子のきつね』 東京北区のむかしばなし（紙芝居）保垣孝幸他著/教育振興部中央図書館

書誌番号：B11480389
書誌番号：B11229773
書誌番号：B11704994
書誌番号：B10464846
書誌番号：B10036865
書誌番号：B12779305
書誌番号：B11018977
書誌番号：B11201787
書誌番号：B13295286